

ワールドサポーター

正式名称：世界銀行債券ファンド（毎月分配型）

（愛称）

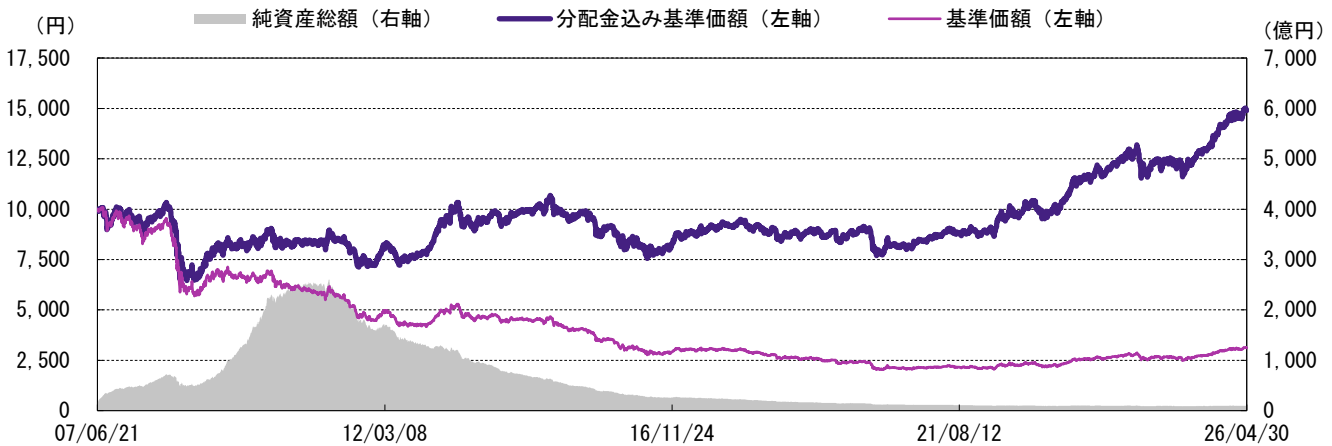
ファンドの概要

設定日：2007年6月21日 償還日：無期限
 決算日：原則毎月12日 収益分配：決算日毎（第2期以降）

運用実績

※このレポートでは基準価額および分配金を1万口当たりで表示しています。
 ※当レポート中の各数値は四捨五入して表示している場合がありますので、それを用いて計算すると誤差が生じることがあります。
 ※当レポートのグラフ、数値等は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

<基準価額の推移>



※分配金込み基準価額は、当ファンドに分配金実績があった場合に、当該分配金（税引前）を再投資したものと計算した理論上のものである点にご留意下さい。
 ※基準価額は、信託報酬（後述の「手数料等の概要」参照）控除後の値です。信託報酬の詳細につきましては、後述の「手数料等の概要」をご覧ください。

基準価額：3,112円

純資産総額：97.55億円

<基準価額の騰落率>

1ヵ月	3ヵ月	6ヵ月	1年	3年	設定来
2.94%	3.41%	8.19%	24.77%	43.61%	48.99%

※基準価額の騰落率は、当ファンドに分配金実績があった場合に、当該分配金（税引前）を再投資したものと計算した理論上のものである点にご留意下さい。

<資産構成比率>

ワールドバンク・ボンド・インカム・ファンド クラスA	98.7%
マネー・オープン・マザーファンド	0.1%
その他	1.2%

<分配金実績（税引前）と決算日の基準価額>

	設定来合計	直近12期計	25・5・12	25・6・12	25・7・14	25・8・12	25・9・12
分配金	6,875円	60円	5円	5円	5円	5円	5円
基準価額	-	-	2,606円	2,648円	2,716円	2,741円	2,761円
	25・10・14	25・11・12	25・12・12	26・1・13	26・2・12	26・3・12	26・4・13
分配金	5円	5円	5円	5円	5円	5円	5円
基準価額	2,840円	2,925円	2,964円	3,057円	3,037円	3,090円	3,121円

<基準価額騰落の要因分解>

前月末基準価額	3,028円
当月お支払いした分配金	-5円
為替要因	
ブラジルリアル	23円
インドルピー	1円
マレーシアリングギット	0円
メキシコペソ	18円
ポーランドズロチ	11円
南アフリカランド	12円
トルコリラ	0円
コロンビアペソ	4円
人民元	1円
チリペソ	9円
フィリピンペソ	-1円
ペルーソル	-1円
インドネシアルピア	-3円
債券要因	
インカムゲイン	14円
キャピタルゲイン	2円
その他	-3円
当月末基準価額	3,112円

※上記の要因分解は、概算値であり、実際の基準価額の変動を正確に説明するものではありません。傾向を知るための参考値としてご覧ください。

投資信託は、値動きのある資産（外貨建資産は為替変動リスクもあります。）を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。後述のリスク情報とその他の留意事項をよくお読みください。

■当資料は、投資者の皆様にご理解を深めていただくことを目的として、アモーヴァ・アセットマネジメントが作成した販売用資料です。掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境や運用成果などを保証するものではありません。

ワールドサポーター (愛称)

ワールドバンク・ボンド・インカム・ファンド クラスAのポートフォリオの内容

<通貨別構成比>

ブラジルレアル	15.5%
メキシコペソ	15.1%
南アフリカランド	14.0%
ポーランドズロチ	11.6%
インドルピー	9.8%
インドネシアルピア	8.6%
チリペソ	7.9%
コロンビアペソ	6.7%
人民元	2.8%
アメリカドル	2.7%
フィリピンペソ	2.7%
ペルーソル	2.7%
日本円	0.0%
トルコリラ	0.0%

※比率は当外国投資信託の純資産総額比です。

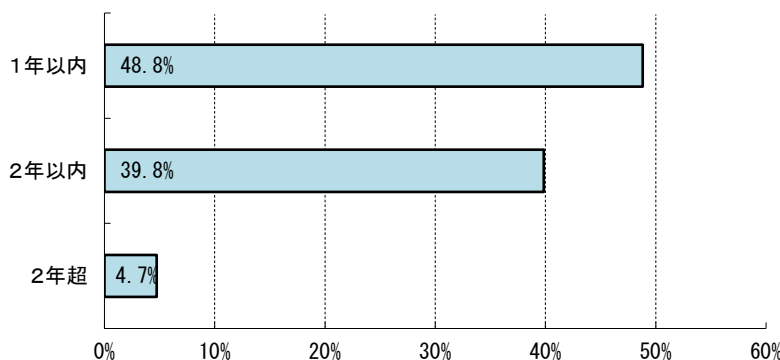
※アモーヴァ・アセットマネジメント・UKリミテッドより提供された情報です。

<格付別構成比>

Aaa	93.4%
Aa	0.0%
A	0.0%
Baa以下	0.0%
平均格付	Aaa

※比率は当外国投資信託の純資産総額比です。
 ※格付はMoody's、S&Pのうち、高い格付を採用しています。
 ※平均格付とは、データ基準日時点で当外国投資信託が保有している有価証券などに係る信用格付を加重平均したものであり、当外国投資信託に係る信用格付ではありません。

<残存別構成比>



※比率は当外国投資信託の純資産総額比です。
 ※変動利付債は次回利払い日までの日数で計算しています。

<公社債種別構成比>

世界銀行債券	93.4%
ソブリン債他	0.0%

※比率は当外国投資信託の純資産総額比です。
 ※ソブリン債は国債、政府機関債、政府保証債、国際機関債などです。

<ポートフォリオの特性値>

ポートフォリオの最終利回り	7.51%
ポートフォリオの直接利回り	5.79%
ポートフォリオの平均残存年数	0.96年
組入債券の銘柄数	18銘柄

※利回りは、個別債券および短期金融資産について加重平均したものです。
 ※最終利回りは、債券および短期金融資産を満期まで保有した場合の利回りです。
 ※利回りは将来得られる期待利回りを示すものではありません。

投資信託は、値動きのある資産（外貨建資産は為替変動リスクもあります。）を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。後述のリスク情報とその他の留意事項をよくお読みください。

■当資料は、投資者の皆様にご理解を深めていただくことを目的として、アモーヴァ・アセットマネジメントが作成した販売用資料です。掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境や運用成果などを保証するものではありません。

ワールドサポーター (愛称)

運用コメント

※運用方針等は作成基準日現在のものであり、将来の市場環境の変動等により変更される場合があります。

◎運用概況

当ファンドは、新興国市場の通貨に分散させながら世界銀行債券に投資しています。当ファンドの基準価額（分配金考慮後）は、前月末比で上昇しました。多くの投資対象通貨が当ファンドの基準通貨である日本円に対して上昇しました。また、保有債券からの受取利息と保有債券の価格上昇が当ファンドのリターンに寄与しました。

◎今後の見通し

新興国市場では、中東情勢が長期的なエネルギーショックへと発展したことで、新興国資産を下支えしてきた比較的良好的な外部環境が試される展開となり、当月は厳しい月となりました。原油価格の上昇やボラティリティ（変動性）の高まりがインフレリスクを再び前面に押し出し、現地通貨建て新興国債券市場では急激な売りに見舞われるなか、為替市場を中心に新興国市場における地域間の格差が拡大しました。地域間の格差は、中南米地域や一部の欧州・中東・アフリカ（EMEA）地域と、アジア地域との間で顕著となりました。交易条件の改善や政策運営に対する信頼性の向上、金利差の大きさなどに下支えされ、中南米地域および中東欧地域のエネルギー輸出国や魅力的な利回りを提供する市場で前向きに推移しました。世界的なボラティリティの上昇にもかかわらず、中東欧・中東・アフリカ地域の新興国通貨に加えて、メキシコペソやブラジルリアルなどの中南米地域の新興国通貨が底堅く推移しました。一方、アジア地域を中心としたエネルギー輸入国は、インフレ動向の悪化や対外収支の悪化、自国通貨安の進行などにより新たな下押し圧力に直面しています。

当月の現地通貨建て新興国債券市場は、世界的な利回りの上昇や、原油価格の上昇がインフレ期待に波及したことなどを背景に、広範な下落に見舞われました。新興国市場の中央銀行は政策姿勢の見直しに動き、利下げの一時停止や、引き締めの金融政策の再確認、あるいは明確な引き締め姿勢への回帰を進めました。中南米地域では、中央銀行による政策対応は引き続き対外的な脆弱性の違いを反映するものとなりました。メキシコの中央銀行は3月の金融政策決定会合で利下げを決定しましたが、インフレリスクの再燃を受けて金融緩和サイクルが終盤に近づいていることを示唆しました。ブラジルは純エネルギー輸出国であり、エネルギーショックに対してはある程度の耐性を有しているにもかかわらず、ブラジルの中央銀行は、エネルギーショックの持続性や二次的波及効果のリスクを巡る不確実性を強調して、慎重な姿勢を示しています。コロンビアの中央銀行は、根強いインフレや政治的圧力の高まりを受けて積極的な利上げを実施しています。EMEA地域でも差別化がみられています。ハンガリーは4月に実施された総選挙の結果を受け、政治と財政の両面における不確実性が低下したことで際立った動きを示しました。リスクプレミアムが縮小したことで現地資産は安定的に推移し、投資家心理の改善や欧州連合（EU）資金の流入への期待が高まったことなどを背景に、ハンガリーフォリントは好調に推移しました。南アフリカなどでは、エネルギー主導のインフレリスクを受けて、中央銀行がタカ派（景気に対して強気）的な姿勢を強めています。経済成長は依然として脆弱ですが、高いキャリーと明確な金融政策のシグナルが、債券市場が弱含むなかでも通貨を下支えしました。

アジアを取り巻く状況は一段と厳しく、エネルギーショックによりエネルギー輸入国の脆弱性が露呈するなか、アジア通貨は軟調に推移しています。エネルギーコストの上昇はインフレ率を押し上げ、経常収支を悪化させるとともに、政策運営の柔軟性を抑制して、複数の中央銀行を防衛的な姿勢へと追い込みました。インドの中央銀行は、インドルピーに対する投機的圧力を抑制するために外国為替規制を強化しています。一方、インドネシアの中央銀行は、自国通貨の安定と市場機能の維持を優先しており、エネルギーコストの上昇を財政措置で吸収し、当面の利下げ期待は後退しています。フィリピンの中央銀行は、インフレの再加速と二次的波及効果のリスクの上昇を受けて、4月の金融政策決定会合で政策金利の引き上げを決定しました。中国は市場の安定化と為替市場の秩序維持に重点を置いており、管理された通貨安のみを容認する一方、景気下支え的な政策支援を強化しています。

投資信託は、値動きのある資産（外貨建資産は為替変動リスクもあります。）を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。後述のリスク情報とその他の留意事項をよくお読みください。

■当資料は、投資者の皆様にご理解を深めていただくことを目的として、アモーヴァ・アセットマネジメントが作成した販売用資料です。掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境や運用成果などを保証するものではありません。

ワールドサポーター (愛称)

運用コメント

※運用方針等は作成基準日現在のものであり、将来の市場環境の変動等により変更される場合があります。

◎市場環境

<北米・中南米>

【メキシコ】

メキシコペソは対円で上昇しました。メキシコの中央銀行は3月下旬に政策金利を引き下げました。その後、同中銀総裁は、5月の会合で追加利下げを検討する可能性があるとの見解を示唆しました。市場では0.25%の追加利下げが実施されることが予想されており、これで今回の金融緩和局面が終了する可能性が高いとみられます。3月の総合消費者物価指数(CPI)の上昇率は加速しました。サービス部門の物価上昇圧力が継続し、コアインフレ率の高止まりを招いているため、今後の追加緩和余地は限定的とみられます。

【ブラジル】

ブラジルリアルは、国内経済の底堅さなどが追い風となり、対円で上昇しました。ブラジルの中央銀行は、政策金利を引き下げました。段階的な金融緩和を継続する一方で、金融市場やコモディティなどの価格のボラティリティ(変動性)が高止まりしていることについて慎重な姿勢を示しました。ブラジル地理統計院(IBGE)が発表した4月中旬までの消費者物価指数(IPCA)の上昇率は市場予想を下回りました。

【コロンビア】

コロンビアペソは、金融政策をめぐる前例のない政治的対立が生じたにもかかわらず、対円で上昇しました。コロンビアの中央銀行は3月末に政策金利を引き上げましたが、これに反発・抗議した財務相は会合から退席しました。コロンビアの大統領はこの利上げを強く批判し中央銀行総裁に対して金融政策のスタンスを緩和的にするよう求めました。3月の総合消費者物価指数(CPI)の上昇率は市場予想を上回りました。

【チリ】

チリペソは、対円で上昇しました。チリの中央銀行は、政策金利を据え置き、今後の金融政策の決定は会合ごとに判断していくことを改めて表明しました。3月の総合消費者物価指数(CPI)の上昇率は小幅に加速しました。金利見通しの織り込み状況は月を通じて大きく変化しました。インフレ上振れリスクが意識されるなか、2年物スワップ金利は月中に振れを伴って推移しました。

【ペルー】

ペルーソルは対円で下落しました。ペルーの中央銀行は、世界的な先行きの不透明感の高まりを受けて政策金利を据え置き、慎重な姿勢を維持しました。3月の総合消費者物価指数(CPI)の上昇率は市場予想を上回り、インフレが加速していることを示しました。エネルギー価格の上昇や供給面からの上昇圧力を受けて大幅な加速となりました。一方、ペルーの中央銀行総裁は、中東情勢に関連するエネルギー価格急騰への対応として金融引き締めを行なうのは時期尚早であるとの見方を示しました。

<アジア・オセアニア>

【インド】

インドルピーは対円で下落しました。インドの中央銀行は政策金利を据え置き、政策姿勢を「中立」に維持するとともに、外部環境が不確実性を高める状況を受けて、政策金利の据え置きがさらに続く可能性を示唆しました。3月の総合消費者物価指数(CPI)の上昇率は小幅に加速したものの、比較的落ち着いた状態を維持しました。しかし、中東情勢の長期化や原油価格の高騰による影響から、今後は上振れする可能性があります。

【中国】

中国人民幣元は対円で上昇しました。4月のレーティングドッグ購買担当者景気指数(PMI)は、製造業、サービス業ともに上昇し、経済活動の回復が示されました。一方で、3月の小売売上高は市場予想を下回り、民間部門全体で活動の拡大が続いているものの、一部に弱さがみられることが示されました。公表された総合消費者物価指数(CPI)はインフレが落ち着いていることを示したため、当局には必要に応じて経済成長を支えるための政策の余地が残されているとみられます。

【インドネシア】

インドネシアルピアは、対円で下落しました。インドネシアの中央銀行は政策金利を据え置きました。同中銀総裁は、安定性を優先しており追加利下げの余地は狭まっていると述べました。3月の総合消費者物価指数(CPI)の上昇率が市場予想を下回ったことから、インフレ面からの金融引き締め圧力は幾分和らいだものの、インドネシアルピアが安値で推移したことから、引き続き通貨の安定性が政策上の主な懸念事項とみられます。

【フィリピン】

フィリピンペソは対円で下落しました。フィリピンの中央銀行は政策金利を引き上げました。3月の総合消費者物価指数(CPI)の上昇率が市場予想を上回り、フィリピンの中央銀行の目標範囲を上回ったとされることは、引き締め措置の一因になったとみられます。3月の製造業購買担当者景気指数(PMI)は低下したものの、景気拡大を示す水準を維持しました。

投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産は為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。後述のリスク情報とその他の留意事項をよくお読みください。

■当資料は、投資者の皆様にご理解を深めていただくことを目的として、アモーヴァ・アセットマネジメントが作成した販売用資料です。掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境や運用成果などを保証するものではありません。

ワールドサポーター (愛称)

運用コメント

※運用方針等は作成基準日現在のものであり、将来の市場環境の変動等により変更される場合があります。

<欧州・中東>

【ポーランド】

ポーランドズロチは、インフレ圧力が高まるなか対円で上昇しました。ポーランドの中央銀行は、地政学的な不透明感の高まりを背景に、政策金利の据え置きを決定しました。3月の小売売上高は、実質ベース、名目ベースともに高い伸びを記録して市場予想を大幅に上回り、家計需要の力強さが示されました。

<アフリカ>

【南アフリカ】

南アフリカランドは対円で上昇しました。南アフリカの中央銀行は3月の会合で政策金利の据え置きを決定しましたが、中東情勢によってインフレ見通しは引き続き不透明であるとの懸念を示しました。3月の総合消費者物価指数（CPI）の上昇率は2月から小幅に加速しました。政府は燃料税の減税措置の延長を検討しています。

投資信託は、値動きのある資産（外貨建資産は為替変動リスクもあります。）を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。後述のリスク情報とその他の留意事項をよくお読みください。

■当資料は、投資者の皆様にご理解を高めることを目的として、アモーヴァ・アセットマネジメントが作成した販売用資料です。掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境や運用成果などを保証するものではありません。

ファンドの特色

世界初*、世界銀行との協同開発ファンド

*アモーヴァ・アセットマネジメント調べ

特色 1 信用力の高い世界銀行が発行する新興国通貨建ての短期債券に投資を行います。

- ・世界銀行とは、貧困削減と持続的成長の実現に向け、新興国に対して融資や技術協力、政策助言などを提供する国際開発金融機関です。
- ・相対的に利回りの高い新興国通貨建ての短期債券を投資対象とします。

特色 2 毎月の安定分配をめざしながら、新興国を応援します。

- ・毎月12日(休業日の場合は翌営業日)を決算日とします。
- ※分配金額は収益分配方針に基づいて委託会社が決定しますが、委託会社の判断により分配金額を変更する場合や分配を行わない場合もあります。

●市況動向および資金動向などにより、上記のような運用ができない場合があります。

●当ファンドは「ESG投信」です

- ・当ファンドは、原則として世界銀行が発行する債券でポートフォリオを構築しており、その運用方針においてESGを主要な要素としていることから、アモーヴァ・アセットマネジメントが「金融商品取引業者等向けの総合的な監督指針」を踏まえて定めた「ESG投信」です。
- ・世界銀行は、発行する債券を通じて調達した資金で、貧困削減と持続的成長の実現に向け、主に新興国に対して融資や政策助言などを提供しております。

※詳細は、投資信託説明書(交付目論見書)をご参照ください。

投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産は為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。後述のリスク情報とその他の留意事項をよくお読みください。

■当資料は、投資者の皆様にご理解を深めていただくことを目的として、アモーヴァ・アセットマネジメントが作成した販売用資料です。掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境や運用成果などを保証するものではありません。

■お申込みメモ

商品分類	追加型投信／海外／債券
購入単位	販売会社が定める単位
購入価額	※販売会社の照会先にお問い合わせください。
信託期間	購入申込受付日の翌営業日の基準価額
決算日	無期限(2007年6月21日設定)
収益分配	毎月12日(休業日の場合は翌営業日)
換金価額	毎決算時に、分配金額は、委託会社が基準価額水準などを勘案して決定するものとし、原則として、安定した分配を継続的に行なうことをめざします。
購入・換金申込不可日	※将来の分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。 換金申込受付日の翌営業日の基準価額 販売会社の営業日であっても、下記のいずれかに該当する場合は、購入・換金の申込みの受付は行ないません。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。 ・英国証券取引所の休業日 ・ニューヨーク証券取引所の休業日 ・ロンドンの銀行休業日 ・ニューヨークの銀行休業日
換金代金	原則として、換金申込受付日から起算して6営業日目からお支払いします。
課税関係	原則として、分配時の普通分配金ならびに換金時および償還時の差益は課税の対象となります。 ※課税上は、株式投資信託として取り扱われます。 ※公募株式投資信託は税法上、一定の要件を満たした場合に少額投資非課税制度(NISA)の適用対象となります。 ※当ファンドは、NISAの対象ではありません。 ※配当控除の適用はありません。 ※益金不算入制度は適用されません。

■手数料等の概要

投資者の皆様には、以下の費用をご負担いただきます。	
<申込時、換金時にご負担いただく費用>	
購入時手数料	購入時の基準価額に対し <u>3.3%(税抜3%)以内</u> ※購入時手数料は販売会社が定めます。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。 ※収益分配金の再投資により取得する口数については、購入時手数料はかかりません。 《ご参考》 (金額指定で購入する場合) 購入金額に購入時手数料を加えた合計額が指定金額(お支払いいただく金額)となるよう購入口数を計算します。 例えば、100万円の金額指定で購入する場合、指定金額の100万円の中から購入時手数料(税込)をいただきますので、100万円全額が当ファンドの購入金額とはなりません。 ※上記の計算方法と異なる場合があります。詳しくは販売会社にお問い合わせください。 (口数指定で購入する場合) 例えば、基準価額10,000円のときに、購入時手数料率3.3%(税込)で、100万口ご購入いただく場合は次のように計算します。 購入金額=(10,000円/1万口)×100万口=100万円、購入時手数料=購入金額(100万円)×3.3%(税込)=33,000円となり、購入金額に購入時手数料を加えた合計額103万3,000円をお支払いいただくこととなります。
換金手数料	ありません。
信託財産留保額	ありません。
<信託財産で間接的にご負担いただく(ファンドから支払われる)費用>	
運用管理費用 (信託報酬)	純資産総額に対し <u>年率1.313%(税抜1.223%)程度</u> が実質的な信託報酬となります。 信託報酬率の内訳は、当ファンドの信託報酬率が年率0.99%(税抜0.90%)、投資対象とするケイマン籍円建外国投資信託「ワールドバンク・ボンド・インカム・ファンド クラスA」の組入れに係る信託報酬率が年率0.323%程度となります。 当該外国投資信託の信託報酬率は、純資産総額や為替相場によって変動します。それに伴ない、実質的な信託報酬率も変動します。 目論見書などの作成・交付に係る費用および監査費用などについては、 <u>ファンドの日々の純資産総額に対して年率0.1%を乗じた額の信託期間を通じた合計を上限とする額</u> が信託財産から支払われます。 組入る有価証券の売買委託手数料、資産を外国で保管する場合の費用、借入金の利息および立替金の利息などがその都度、信託財産から支払われます。 ※運用状況などにより変動するものであり、事前に料率、上限額などを表示することはできません。

※投資者の皆様にご負担いただくファンドの費用などの合計額については、保有期間や運用の状況などに応じて異なりますので、表示することができません。

※詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

■委託会社、その他関係法人

委託会社	: アモーヴァ・アセットマネジメント株式会社
受託会社	: 野村信託銀行株式会社
販売会社	: 販売会社については下記にお問い合わせください。 アモーヴァ・アセットマネジメント株式会社 〔ホームページ〕 www.amova-am.com 〔コールセンター〕0120-25-1404(午前9時～午後5時。土、日、祝・休日は除く。)

■お申込みに際しての留意事項

○リスク情報

- ・投資者の皆様の投資元金は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元金を割り込むことがあります。ファンドの運用による損益はすべて投資者（受益者）の皆様に帰属します。なお、当ファンドは預貯金とは異なります。
- ・当ファンドは、主に債券を実質的な投資対象としますので、債券の価格の下落や、債券の発行体の財務状況や業績の悪化などの影響により、基準価額が下落し、損失を被ることがあります。また、外貨建資産に投資する場合には、為替の変動により損失を被ることがあります。
- ・投資対象とする投資信託証券の主なリスクは以下の通りです。

【為替変動リスク】

- ・外貨建資産については、一般に外国為替相場が当該資産の通貨に対して円高になった場合には、ファンドの基準価額が値下がりする要因となります。
- ・新興国通貨建ての債券は、新興国の通貨の為替変動に影響を受けます。新興国の通貨は、先進国の通貨に比べて為替変動が大きくなる場合があります。

【カントリー・リスク】

- ・投資対象となる債券は新興国通貨建てで起債されたものであるため、新興国における非常事態など（金融危機、財政上の理由による国自体のデフォルト、重大な政策変更や資産凍結を含む規制の導入、自然災害、クーデターや重大な政治体制の変更、戦争など）を含む市況動向や資金動向などによっては、ファンドにおいて重大な損失が生じるリスクがあり、投資方針に従った運用ができない場合があります。
- ・一般に新興国は、情報の開示などが先進国に比べて充分でない、あるいは正確な情報の入手が遅延する場合があります。

【価格変動リスク】

- ・公社債は、金利変動により価格が変動するリスクがあります。一般に金利が上昇した場合には価格は下落し、ファンドの基準価額が値下がりする要因となります。ただし、その価格変動幅は、残存期間やクーポンレートなどの発行条件などにより債券ごとに異なります。

【流動性リスク】

- ・市場規模や取引量が少ない状況においては、有価証券の取得、売却時の売買価格は取引量の大きさに影響を受け、市場実勢から期待できる価格どおりに取引できないリスク、評価価格どおりに売却できないリスク、あるいは、価格の高低に関わらず取引量が限られてしまうリスクがあり、その結果、不測の損失を被るリスクがあります。
- ・新興国の通貨は、先進国の通貨に比べて市場規模や取引量が少ないため、流動性リスクが高まる場合があります。

【信用リスク】

- ・公社債および短期金融資産の発行体にデフォルト（債務不履行）が生じた場合またはそれが予想される場合には、公社債および短期金融資産の価格が下落（価格がゼロになることもあります。）し、ファンドの基準価額が値下がりする要因となります。また、実際にデフォルトが生じた場合、投資した資金が回収できないリスクが高い確率で発生します。

【ESG投資に関するリスク】

- ・ESG特性を重視して投資を行なうため、ファンドの基準価額の値動きは市場全体の値動きと異なる場合があります。その結果、ファンドの基準価額は大きく変動する場合があります。

※ファンドが投資対象とする投資信託証券は、これらの影響を受けて価格が変動しますので、ファンド自身にもこれらのリスクがあります。

※基準価額の変動要因は、上記に限定されるものではありません。

○その他の留意事項

- ・当資料は、投資者の皆様へ「世界銀行債券ファンド（毎月分配型）/愛称：ワールドサポーター」へのご理解を高めていただくことを目的として、アモーヴァ・アセットマネジメントが作成した販売用資料です。
- ・当ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定（いわゆるクーリング・オフ）の適用はありません。
- ・投資信託は、預金や保険契約とは異なり、預金保険機構および保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、銀行など登録金融機関で購入された場合、投資者保護基金の支払いの対象とはなりません。
- ・投資信託の運用による損益は、すべて受益者の皆様に帰属します。当ファンドをお申込みの際には、投資信託説明書（交付目論見書）などを販売会社よりお渡ししますので、内容を必ずご確認ください。お客様ご自身でご判断ください。

設定・運用は **アモーヴァ・アセットマネジメント株式会社**
金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第368号
加入協会：一般社団法人資産運用業協会

投資信託説明書(交付目録見書)のご請求・お申込みは

金融商品取引業者等の名称	登録番号	加入協会			
		日本証券業協会	一般社団法人資産運用業協会	一般社団法人金融先物取引業協会	一般社団法人第二種金融商品取引業協会
株式会社青森みちのく銀行	登録金融機関	東北財務局長 (登金) 第1号	○		
あかつき証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長 (金商) 第67号	○	○	
株式会社秋田銀行	登録金融機関	東北財務局長 (登金) 第2号	○		
株式会社イオン銀行 (委託金融商品取引業者 マネックス証券株式会社)	登録金融機関	関東財務局長 (登金) 第633号	○		
株式会社池田泉州銀行	登録金融機関	近畿財務局長 (登金) 第6号	○		○
池田泉州T T証券株式会社	金融商品取引業者	近畿財務局長 (金商) 第370号	○		
SMB C日興証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長 (金商) 第2251号	○		○
株式会社SBI証券 ※右の他に一般社団法人日本STO協会、 ※右の他に一般社団法人日本暗号資産等取引業協会、 ※右の他に日本商品先物取引協会にも加入	金融商品取引業者	関東財務局長 (金商) 第44号	○	○	○
株式会社SBI新生銀行 (委託金融商品取引業者 株式会社SBI証券) (委託金融商品取引業者 マネックス証券株式会社)	登録金融機関	関東財務局長 (登金) 第10号	○		○
株式会社きらぼし銀行	登録金融機関	関東財務局長 (登金) 第53号	○		○
株式会社佐賀銀行	登録金融機関	福岡財務支局長 (登金) 第1号	○		○
株式会社静岡銀行	登録金融機関	東海財務局長 (登金) 第5号	○		○
株式会社七十七銀行	登録金融機関	東北財務局長 (登金) 第5号	○		○
七十七証券株式会社	金融商品取引業者	東北財務局長 (金商) 第37号	○		
株式会社十六銀行	登録金融機関	東海財務局長 (登金) 第7号	○		○
株式会社荘内銀行	登録金融機関	東北財務局長 (登金) 第6号	○		
株式会社富陽銀行	登録金融機関	関東財務局長 (登金) 第45号	○		○
ソニー銀行株式会社 ※右の他に一般社団法人日本STO協会にも加入	登録金融機関	関東財務局長 (登金) 第578号	○		○
株式会社第四北越銀行	登録金融機関	関東財務局長 (登金) 第47号	○		○
大和証券株式会社 ※右の他に一般社団法人日本STO協会にも加入	金融商品取引業者	関東財務局長 (金商) 第108号	○	○	○
株式会社千葉銀行	登録金融機関	関東財務局長 (登金) 第39号	○		○
ちばぎん証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長 (金商) 第114号	○		
東海東京証券株式会社 ※右の他に一般社団法人日本STO協会にも加入	金融商品取引業者	東海財務局長 (金商) 第140号	○	○	○
株式会社徳島大正銀行	登録金融機関	四国財務局長 (登金) 第10号	○		
内藤証券株式会社	金融商品取引業者	近畿財務局長 (金商) 第24号	○		○
株式会社長崎銀行	登録金融機関	福岡財務支局長 (登金) 第11号	○		
株式会社西日本シティ銀行	登録金融機関	福岡財務支局長 (登金) 第6号	○		○
西日本シティT T証券株式会社	金融商品取引業者	福岡財務支局長 (金商) 第75号	○		
日産証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長 (金商) 第131号	○		○
野村證券株式会社 ※右の他に一般社団法人日本STO協会にも加入	金融商品取引業者	関東財務局長 (金商) 第142号	○	○	○
八十二証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長 (金商) 第21号	○	○	
株式会社八十二長野銀行	登録金融機関	関東財務局長 (登金) 第49号	○		
株式会社八十二長野銀行 (委託金融商品取引業者 八十二証券株式会社)	登録金融機関	関東財務局長 (登金) 第49号	○		○
株式会社百五銀行	登録金融機関	東海財務局長 (登金) 第10号	○		○
百五証券株式会社	金融商品取引業者	東海財務局長 (金商) 第134号	○		
株式会社百十四銀行	登録金融機関	四国財務局長 (登金) 第5号	○		○
株式会社広島銀行	登録金融機関	中国財務局長 (登金) 第5号	○		○
株式会社福島銀行	登録金融機関	東北財務局長 (登金) 第18号	○		
PayPay銀行株式会社	登録金融機関	関東財務局長 (登金) 第624号	○		○
株式会社北陸銀行	登録金融機関	北陸財務局長 (登金) 第3号	○		○
松井証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長 (金商) 第164号	○		
マネックス証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長 (金商) 第165号	○	○	○
株式会社みずほ銀行	登録金融機関	関東財務局長 (登金) 第6号	○		○
株式会社三井住友銀行	登録金融機関	関東財務局長 (登金) 第54号	○		○
三菱UFJ eスマート証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長 (金商) 第61号	○	○	○
水戸証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長 (金商) 第181号	○	○	
株式会社南日本銀行	登録金融機関	九州財務局長 (登金) 第8号	○		
株式会社宮崎銀行	登録金融機関	九州財務局長 (登金) 第5号	○		
m o o m o o証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長 (金商) 第3335号	○	○	
株式会社武蔵野銀行	登録金融機関	関東財務局長 (登金) 第38号	○		
株式会社横浜銀行	登録金融機関	関東財務局長 (登金) 第36号	○		○
楽天証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長 (金商) 第195号	○	○	○

※上記販売会社情報は、作成時点の情報に基づいて作成しております。

※販売会社によっては取扱いを中止している場合がございます。

収益分配金に関する留意事項

- 分配金は、預貯金の利息とは異なり、投資信託の純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。

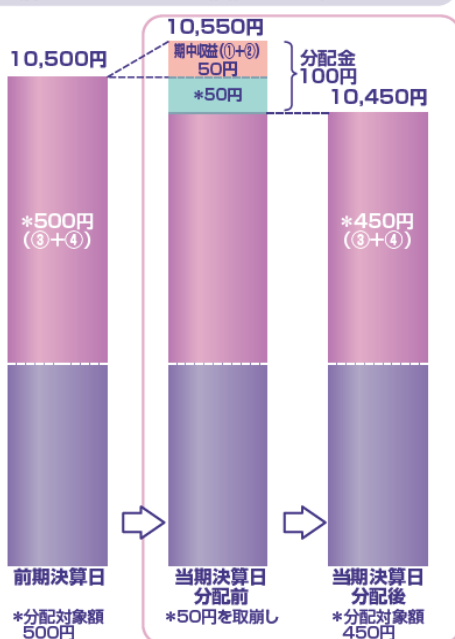
投資信託で分配金が支払われるイメージ



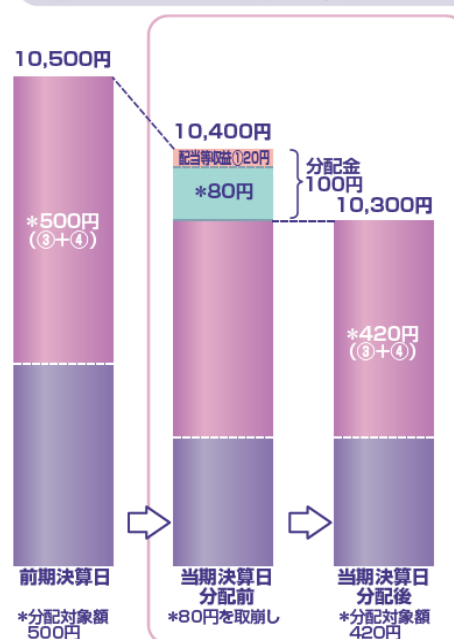
- 分配金は、計算期間中に発生した収益（経費控除後の配当等収益および評価益を含む売買益）を超えて支払われる場合があります。その場合、当期決算日の基準価額は前期決算日と比べて下落することになります。また、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。

計算期間中に発生した収益を超えて支払われる場合

前期決算から基準価額が上昇した場合



前期決算から基準価額が下落した場合

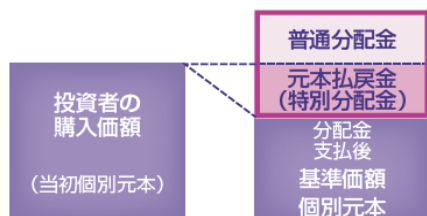


(注) 分配対象額は、①経費控除後の配当等収益および②経費控除後の評価益を含む売買益ならびに③分配準備積立金および④収益調整金です。分配金は、分配方針に基づき、分配対象額から支払われます。

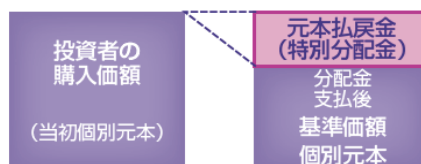
※ 上記はイメージであり、将来の分配金の支払いおよび金額ならびに基準価額について示唆、保証するものではありません。

- 投資者のファンドの購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がり小さかった場合も同様です。

分配金の一部が元本の一部払戻しに相当する場合



分配金の全部が元本の一部払戻しに相当する場合



※ 元本払戻金(特別分配金)は実質的に元本の一部払戻しとみなされ、その金額だけ個別元本が減少します。また、元本払戻金(特別分配金)部分は非課税扱いとなります。

- ・ 普通分配金：個別元本(投資者のファンドの購入価額)を上回る部分からの分配金です。
- ・ 元本払戻金：個別元本を下回る部分からの分配金です。分配後の投資者の個別元本は、(特別分配金) 元本払戻金(特別分配金)の額だけ減少します。

